

継続事業 東ティモール

学習教材「ラファエック」を通じた自立支援事業(第3期)

— アジアで一番新しい国の農村部の人たちに生きるチカラを届ける —



活動地域: 東ティモール全13県

事業期間: 2022年7月～2027年6月(5年間)

事業規模: 当年度支出額1,520千円(総事業規模: 7,670,608ドル *他ドナー資金を含む)

主な支援者: 企業、個人

103,000

世帯

成人向け「ラファエック」の配布世帯数

1,645

校

未就学・小学生向け「ラファエック」を配布した学校数

169,000

「ラファエック Facebook」フォロワー数



課題

アジアで一番若い国である東ティモール。2002年にインドネシアから独立するまで、16世紀から続く諸外国からの支配により、子どもたちは自国の文化、歴史、そして地理さえも学ぶことが禁じられていました。独立をめぐる闘争においては、95パーセントもの学校が消失。多くの尊い命も失われ、独立後、人口の半数以上が就学年齢の子どもたちとなりました。独立から22年が経ち、成人の識字率に改善は見られるものの、子どもたちの就学率や退学率においては課題が残り、特に農村地域における状況は深刻です。農村地域では、十分な識字能力や計算能力を身に付けることができないため、経済活動や家計の管理に支障をきたし、親の識字能力の低さが子どもの栄養・健康状態、そして就学率にも悪影響を及ぼしています。

活動内容

本年度より、これまでの成人向け、未就学・小学校低学年向け、小学3～6年向け、教員向けの4種に加え、特別編として教員用クラス運営ガイダンス本が仲間入り。計5種を全13県で3回配布しました。効果調査の結果、「学習雑誌のおかげで学校に通うのが楽しくなった」と回答した生徒は、小学低学年で96パーセント、小学3年生～6年生で98パーセントとなりました。また、教員の97パーセントが、「教員用ラファエック雑誌が教室の教育実践の改善に役立っている」と回答しました。課題としては、雑誌の納期の短縮化があげられます。雑誌を海外で印刷しているため、発注から首都ディリまでの輸送に2か月を要します。国内での印刷の可能性については、2022年から教育省との協議を継続しており、次善策として、インドネシアなど近隣国での印刷の可能性も検討しているところです。

支援者の声



大統領から「ラファエック」を受けとる子どもたち

「将来、知性を身につけ、成功したいのであれば、CAREが教育省と連携して提供する学習雑誌を読んでください」と、マナット市のバタラ小学校を訪問したラモス＝ホルタ大統領は、5年の生徒たちに励ましの言葉をかけながら、「ラファエック」を手渡しました。

CAREは、「ラファエック」を活用し、農村部を中心とした地域コミュニティの人々にも様々な働きかけを行っています。例えば、成人向け「ラファエック」には、親子でできる家庭学習方法の紹介や、農業、栄養、妊産婦の健康をテーマとした情報、さらには家庭での男女間の役割分担やジェンダーに基づく暴力の防止についてなどジェンダー平等を啓発する内容も掲載されています。